

PROJECT

国際交流プロジェクト



きなこクッキーを作る教員たち



本学キャンパスでゴミの分別方法を熱心に学ぶ教員たち



2004年度アフガニスタン女性教員支援プロジェクト紹介

お茶の水女子大学、津田女子大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学と、それぞれ100年以上の歴史をもつ5大学は、2002年5月にアフガニスタン女性教育のための「五女子大学コンソーシアム協定」を結びました。

その背景には、国籍・年齢を問わず、女性の成長を支援し、その資源能力の十全な開発を企てるという本学のミッションがあります。その協定では今後3年間にわたって、女子大学の教育経験を活用して特に戦禍を受けた教育面について、アフガニスタン女子教育支援事業を実施することになりました。本年はその3年目にあたり、最終プログラムとして、2005年1月11日から2月10日まで、アフガニスタン女性教員15人を招き、約32日間の研修が実施されました。

特にこのプログラムの誇るべき点は5大学および附属学校の教員のみならず、大学間の学生同士が連携して本プロジェクトに研修補助インターンとして積極的に参加し、アフガンウェブを運用していることです。5大学の学生レポーターがそれぞれ

の当番日の研修活動の記録をその日のうちにまとめ、翌朝10時には津田塾大のウェブへ掲載、5女子大学のキャンパスのコンピューターから読むことができました。

そのレポートから活動の一端を紹介します。1月31日は、本学附属高校・中学校で「食物と栄養と調理・食生活と衛生」の研修があり、脇 清香さん(本学2年)と桑原 遥さん(津田塾大2年)がレポートしています。日本の家庭科の教科書の紹介のあと、栄養価の高い「大豆」を学び、調理実習で「きなこクッキー」を作りました。調理後はもちろん昼食時においしくいただきました。なお本協定は本年5月で切れましたが、新たに3年間協定が更新されました。(文責：編集委員会)